

20 新建第 758 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

福島県相馬郡新地町長 加藤 憲郎



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

標記について、別紙のとおり提出いたします。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

いつの時代も、道はものを運び、人を動かし、文化を広げ、より速く、より遠くへ、そして互いに、より深いコミュニケーションを交わし合うために、高速交通網などの道路整備が進められてきたと思っております。このように、道路の持つ役割は、社会・経済・文化を構築していく上で大変重要な社会資本であると常々感じております。公共交通網の整備が遅れている地方の道路は、毎日の生活にとって重要な社会資本であることは言うまでもありません。道路が整備されていない地域には、人は集まらず、物も動かず、居住もしないというのが現状であります。そういう意味からも人が生活しているところには、真に必要でない道路は無いと考えるべきである。従って、都市部・地方の各地域が必要とする道路の役割にあった道路整備をしっかりと進めていくべきである。

今、地方にとっては少子高齢化が大きな社会問題となっておりますが、この問題を解決するためには、多くの人(特に子供の産める世代)が住むことのできる環境整備が求められているところであります。そのためには、若者が働ける場所が必要となりますので、企業の立地が大きな鍵を握ると考えております。道路網の整備ができていないか否かは、企業立地の大きな条件であります。地方の発展は、国の繁栄につながるものであると考えますので、もう少し地方を見た道路行政をしっかりと進めていく必要があると思っております。そのためにも完成目標年度を定め、計画されている大動脈である高速自動車国道をはじめとする高規格幹線道路網1万4千キロメートルの高速ネットワークの早期整備を図ることが、いろいろな地域と円滑な交流・連携することができ、医療・福祉・地域産業の活性化など持続可能な地域の形成、地震や台風・豪雨等による自然災害時におけるスムーズな避難・物資の輸送が可能となり、多様な広域ブロックが自立的に発展する国土を構築するのにつながるものと思っております。

いわき市から新地町の福島県の浜通地区は、東京都心から300km以内の距離にあり地理的にも気候的にも恵まれ、台風・雪や地震などの自然災害が比較的少ない大変住み良い地域であります。この地域の発展の遅れは、交通網の整備の遅れが大きな要因となっていることは言うまでもありません。当地域にとっては、どこにでもより速く、より遠くへ移動できる高速道路【常磐自動車道・東北中央自動車道(相馬市～福島市)】や新幹線の基本軸となる交通網を早期整備することが最大の望みであります。

当地域の国の進める道路整備(高速道路網)は、全国的に見ても大変遅れております。これを補幹する県道や市町村道の整備も遅れているのが現状であります。国も地方も大変厳しい財政状況にあるわけですが、財源を確保して補助率のアップや県道を国直轄事業として取り組むなど早い段階で効果の的なる施策を進めていくことを要望いたします。

②-1 地域の現状と抱える課題

〇〇都道府県〇〇市町村

○現状

昭和58年に福島県、新地町、相馬市、旧地域振興整備公団が一体となって、相馬港の背後地に、臨海型と内陸型の工業団地の造成、併せて、全国初のエネルギー港湾として指定を受けた重要港湾相馬港や工業用水・道路などの公共施設を整備し、地域の雇用拡大・経済の活性化と豊かで住みよい地域社会を目指し「相馬地域総合開発事業」が進められてきました。相馬中核工業団地には、相馬共同火力発電(株)新地発電所や(株)IHIをはじめ14社が操業を開始しております。平成20年3月には、相馬バイパスが開通し、平成26年度の全線開通を目指して、仙台と首都圏を結ぶ大動脈である常磐自動車道の建設が進められています。さらに、相馬市と福島市を結ぶ『阿武隈東道路・霊山道路』の整備も進められており、当地域には、相馬港や仙台空港も含めた陸・海・空と高速交通・物流体系が整うことになり、南東北の交通の要衝として大きな発展の可能性が広がってきている。

今、当町においては、常磐自動車道の新地インター(仮称)周辺地域と外に2箇所の工業団地の整備を計画しており、既存の北原工業団地や相馬中核工業団地と併せ企業誘致に取り組み働く場所の確保に努めているところであります。

○課題

人口減少と少子高齢化対策としての雇用の場所を確保するためにも、常磐自動車道が平成26年度に全線開通、相馬バイパスの完成、相馬港3・4号埠頭の完成が間近になってきたことにより、「相馬地域総合開発事業」の集大成が見えてきた今、主要地方道相馬亘理線の整備が急務であると考えております。しかし、福島県の厳しい財政状況を考えると、常磐自動車道の全線開通に併せた整備が大変厳しい状況にあり、当事業の最大限の効果を上げることができないと思われるので、補助率のアップや国直轄事業としての取り組むことによる早期整備が必要である。また、常磐自動車道や国道6号や113号に連絡する主要道路である県道の整備が遅れており、町で計画している事業の進捗にも支障をきたしている。

安心安全のまちづくりを進めている当町においては、太平洋に面しており、宮城沖地震が高い確率でおこるといわれておりますので、津波からの避難路確保が大変重要であります。しかし、避難路として指定している県道が未整備であるため、スムーズな避難が懸念されております。

このように、当町においては国道6号、113号、常磐自動車道を補完する南北・東西の流動軸である県管理道路の整備促進、さらには東北中央自動車道の整備促進が最大の課題であると思っております。

②-2 地域の目指すべき将来像

本町は豊かな自然と長い歴史のなかで培われてきた地域文化に恵まれ、農業と漁業をもつ自然環境や都市環境など身のまわりの環境を大切に持続可能な環境と暮らし方、安心につながる食と健康、海・田園・丘や山が楽しめる行楽地としての資質などを有するまちとして発展してきましたが、仙台都市圏の広がりや、同時に重要港湾をもち、常磐自動車道の整備が進められている本町の立地は、これからの時代を切り拓くための条件を備え、可能性を持っております。

こうした可能性を高め、地域の資質を伸ばすには、自然と都市が溶け合う田園をめざし、交流条件の高まりに対応し、変化に富む多彩な自然と人となごみ交わる新地らしい暮らしの豊かさを広げていく必要があります。

21世紀のまちづくりは、町民一人ひとりの多彩な豊かさを実現していくことがもとめられており、未来へ向かって新しい夢を拓くことのできるまちづくりをめざし、田園としての豊かさを土台に、出会いやふれあいの中から町民一人ひとりの思いがくみあげられ、大きな力となって新地を創造していく思いを込めて『ふれあいと創造の田園都市(まち)・しんち』を将来像としたまちづくりに取り組んでおります。

本町を活性化し、自立の行政運営を行っていくためには、人口の増加政策が必須です。そのためには、企業立地の促進による働く場所の確保と新地駅前区画整理事業などの推進による居住環境の整備、同時に町民一人ひとりの生涯にわたる健康と安心を支えるための子育て・医療・福祉や、地域の安全などへの適切な支援が重要であると考えており、『人と自然がともに輝き、笑顔あふれるまちづくり』を基本理念として積極的にまちづくりを進めているところであります。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

福島県相馬郡新地町

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	常磐自動車道・東北中央自動車道の早期整備に併せて県道の整備促進	雇用の場と人口増	
・大規模な地震、火災に強い国土づくり	主要地方道相馬亘理線(釣師バイパス)・一般県道新地停車場釣師線・赤柴中島線の早期整備	高い確率で発生されている宮城県沖地震時の津波や豪雨等の自然災害からの避難・緊急輸送	
・良好な生活空間・自然環境の形成	国道6号歩道(マウンドアップからフラット型に)のバリアフリー化、国道113号の4車線化、国道6号を大型車対応車線化(3.25mから3.50m)、国道6号の交差点改良(ランプ構造に)	地域活力の向上に併せて施策を講じることで、少子化・高齢化社会の対応	